

三豊市詫間町の粟島に若手芸術家が滞在し、創作活動に励む芸術家村事業「アーティスト・イン・レジデンス」(市主催)の入村式が23日、粟島の旧粟島中学校跡地「日々の笑学校」であった。アーティストの日比野克彦さん(58)が校長を務める同校に、今年2人の男性芸術家が「入学」した。2人は集まった島民らを前に早速、作品制作への抱負などを述べた。

三豊・粟島芸術家村で入村式

展開してもらおう。

同校で開かれた入村式には、島民ら約20人が集まった。日比野校長は「体を張って、島の魅力を見つけ出し、作品として発信してくれることを楽しみにしている」と期待を寄せた。

菊地さんは「真つさらな状態から、新しいことを始めていけたら」と意気込みを定めていた。2人は5月8日に粟島に入り、8月末まで滞在。期間中は、地域文化に触れながら創作活動に取り組むほか、島内でワークショップや成果発表会を開催する予定。

若手2人が意気込み

「新しいこと始めたい」「面白い作品できそう」

滞在制作、島民と交流も

同事業は芸術家との交流を通して、地域活性化を図るのが狙い。10期目の今回は、菊地良太さん(35)と葉真出身の森山泰地さん(28)と東京都出身の2作家を招へいし、創作活動を



入村式に参加する(左から)日比野さん、菊地さん、森山さん
—三豊市詫間町、日々の笑学校

SCRAMBLE 讃岐

家族再統合、特別養子縁

虐待や経済的事情などを理由に、離れて暮らさざるを得ない親子が増えている。行政も防止に向けたさまざまな取り組みを講じているが、ゴールは子どもの幸せ。虐待後

なく会を



再び生活を始めた。お母さんた息子が男性に悩ち明けたり、男性子どものことを相りする。男性は今する。「育ててや

楽しいねバンブーダ

オイスカが竹の子

収穫や料理を楽しみながら竹への理解を深める「オイスカ竹の子フェス」が23日、綾川町内で開かれ、親子連れらとオイスカ四国研修センターの海外研修生ら50人が参加。オイスカが竹の子を育て、竹を使う習い事を通して、国際交流の輪を広げた。

人気役者 威勢よく



讃岐の春を華やかに彩った「第33回四国こんびら舞伎大芝居」(琴平町、大芝居推進協議会主催)23日、千秋楽を迎えた。場の旧金毘羅大芝居(金座、同町)では、開演前